

# 黒岩探訪

たんぼう

9

KUROIWA  
くろいわ

黒岩つつみ及び谷津

1

今回取り上げるのは「堤（つつみ）と谷津（谷）」です。黒岩地区の地形は図に示すとおり、丘陵地帯にヒトデのように谷津が入り込んでいます。この谷ごとに上流部に堤を造り谷津を水田にしていることに特徴があります。米作りを農業の一番の基本と考え水田開発を行ってきた日本では、全国的にこの風景が見られます。ポンプや大規模用水路が発達する前は、村々の用水確保は堤によるところが大きくあちこちに造られました。富岡市の中では、黒岩地区と小野地区に比較的多く見られますが、時代の変化により、ずいぶん減ってきているようです。

黒岩カルタにも堤または谷津に関するものも多くあり、次の四つが残されています。

「かくし谷津から街を見守る天狗様」  
「ブルーギルプラントンも豊富な黒岩つつみ」  
「やつ谷津の田畑うるおす黒岩つつみ」  
「わが里は九十九谷の山合いに」

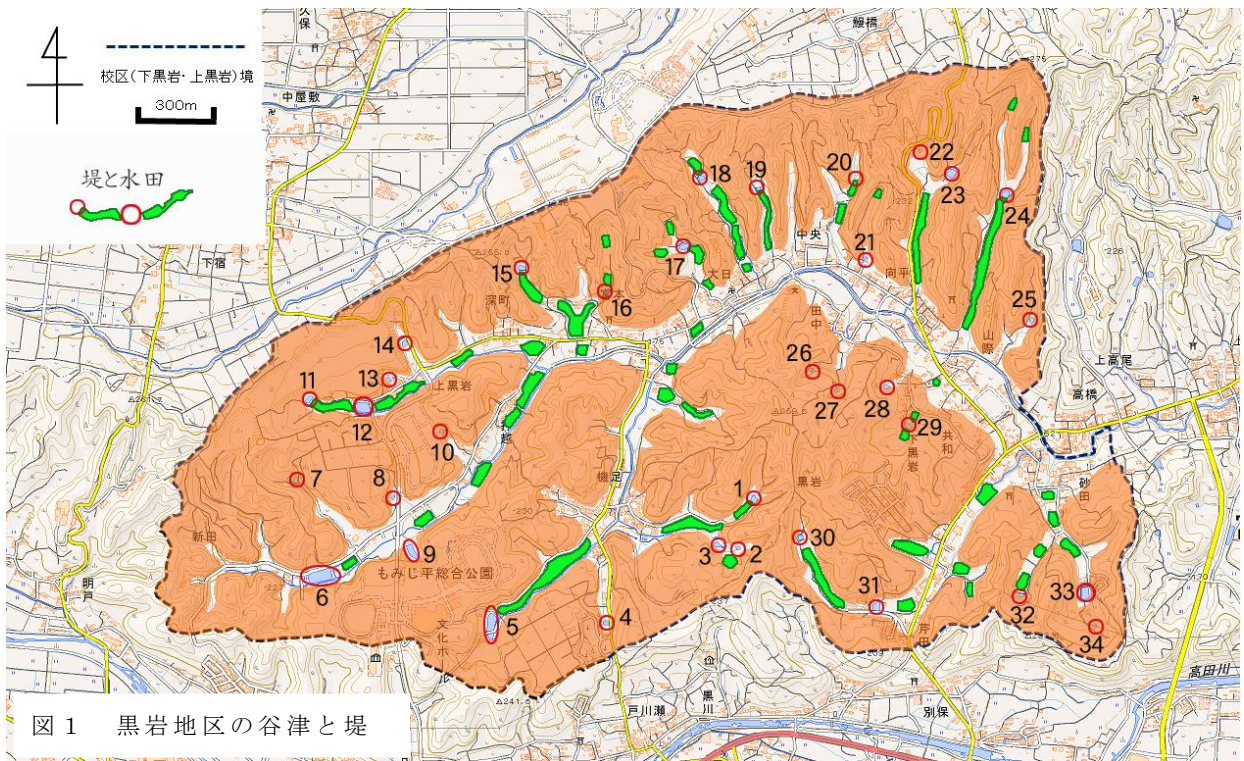


図1 黒岩地区の谷津と堤



写真1 新田の堤

この号は何回かに分けて掲載する予定です。

この図の地図は、国土院のウェブページからダウンロードしたものを使用しました。長い部分は水田記号の所で、現在は当然古いものでもありません。ただ、谷津をすべて水田利用してきた先人の努力に頭が下がります。（ウェブペーパーはカラーで載せたいのでご覧下さい。）

また、数字は堤を示します。黒岩カルタの説明でも三十四のため池があるとされています。図の堤と一致するとは限りません。現在の田畑は、現在でも無くなっているものもありません。一番大きい六番の新田地区の現在の写真を載せておきます。